

明治から ふりかえる 中野のまち

明治
彰義隊

区内に残る彰義隊の名残

江戸幕府最後の将軍、徳川慶喜の警護を目的に、江戸市中の治安維持に当たった彰義隊。戊辰戦争（1868～69年）では、今の上野公園辺りで明治新政府軍と戦い敗北しました。

彰義隊とシイの木

生き残った隊士は各地に逃げ、その一部は中野を訪れました。宝仙寺・慈眼寺辺りに逃げたきた団は素行が悪く、住民が団結して協力を拒んだため、村内に入れなかったといえます。一方、江古田方面では、御家人幕府に仕える武士と交流が深かった江古田村名主の山崎家が逃げてきた隊士を受け入れ、傷の手当てをし、雑炊を食べさせるなど、手厚く世話し



樹齢 400 年とも 600 年ともいわれるシイの木は、区の指定記念物でもあります



徳川斉昭の書

たといえます。この時、傷の手当てをした場所が、現在の歴史民俗資料館（江古田4-3-4）の敷地内に残るシイの木の前だったと伝えられています。

彰義隊が残した「徳川斉昭の書」

山崎家で休息した彰義隊の隊長は、「徳川の勢いが挽回するまで預けておく」と言い残し、湯島聖堂にかけてあった徳川斉昭の書を置いていったと伝えられています。それから150年。斉昭の書は、現在、歴史民俗資料館に保管されています。

平成30年は、明治維新から数えて150年目に当たる節目の年です。今号では、明治時代以降の中野の歴史をふりかえります。

文化財担当／6階

TEL (03)2200-0031 FAX (03)2200-0000

明治
甲武鉄道

中野駅の開業

明治22（1889）年には、現在のJR中央線の前身である甲武鉄道が開通、中野駅などが開業しましたが、そこに至るには複雑な経過がありました。

反対の声を受けて決まった直線路線

甲武鉄道は、明治18（1885）年に5人の実業家によって計画されました。当時は、甲州街道と青梅街道の間を通過して八王子まで開通させる予定でしたが、農作物への被害などを心配する声を受けていったん、計画を断念しました。

明治20（1887）年頃には、青梅街道の北側を通る案が示されましたが、これも反対を受けて実現しませんでした。

根強い反対により、集落が少なかった現在の路線に決定されました。東中野から立川の間が直線になっているのは、このとき、万策尽きた担当者が地図の上に定規で線を引いたため、という話もあります。



明治39年ごろの中野駅舎（上）、昭和37年の国鉄中央線東中野駅付近（下）

明治～昭和
建築物

明治～昭和の建築物

明治以後、純農村地帯だった中野の人口は急激に増加し、住環境が整えられていきました。明治～昭和の建築物には、国の登録有形文化財や区の指定有形文化財として、現在もその個性的な姿を残しているものがあります。

中村家住宅洋館

なかのZERROホールの東側に建つ洋館。明治後半（1890年以降）に築地または銀座に建てられたもので、大正4（1915）年頃に現在の地に移築されました。内外装の意匠「デザイン」や建具の形式、暖炉などに、明治期にまでさかのぼる特徴がある国登録有形文化財の建物です。

☆現在は個人の方がお住まいなので、見学できません



A-1 大正時代以降のものと考えられる玄関のステンドグラス
A-2 洋室の暖炉周りの大理石には細かな彫刻が施されている
A-3 中村家住宅外観

明治
産業

青梅街道沿いに栄えた産業

明治ごろの中野は、畑などが続く純農村地帯でした。唯一の例外は青梅街道筋の中野宿。青梅街道は、多摩地域の物資を運ぶ重要なルートで、その最後の宿場町だった中野宿は、物資の集まる場所でした。その豊富な物資は、地場産業の発展につながり、みそ・しょうゆなどの醸造業、麦・蕎麦などの製粉業が盛んになりました。産業の発展などにより、中野の人口は急激に増えました。

浅田醤油醸造所のレンガ塀

浅田政吉が興した醤油醸造所は明治初期から昭和まで営業していましたが、東京空襲により建物はほぼ焼失。現在は、中央2丁目の児童公園に、移築・復元されたレンガ塀を見ることが出来ます（中央2-32）



あぶまた味噌本社前の大釜



明治18年創業のみそ醸造メーカーで、看板商品の「江戸甘味噌」は昭和初期まで東京のみその6割を占めるほど広く親しまれました。店頭にはかつて使用されていた大釜が展示されています（本町3-32-19）

石森製粉本社前の石臼



そば粉をひくのに使われていた直径2mの石臼。中野坂上駅近くの石森製粉は、明治5年創業で、今もそば粉の製造と販売をしています（本町1-32-27）

哲学堂公園内古建築物群（松が丘1-34-28）

明治37（1904）年、精神修養の場として開設された哲学堂公園。園内には、同年建立の「四聖堂」を始めとした多くの建築物があり、12棟が区指定有形文化財です。

開園時間

9月30日まで 午前8時～午後6時、10月1日～11月30日 午前8時～午後5時、12月1日～2月末 午前9時～午後5時
☆12月29日～31日は休園



B-1 六賢台。聖徳太子・菅原道真（日本）・荘子・朱子（中国）・龍樹・迦毘羅仙（インド）を東洋的「六賢」としてまつっています
B-2 四聖堂。釈迦・孔子・カント・ソクラテスの「四聖」を東西の哲学者の代表としてまつっています



旧野方配水塔（江古田1-3）

昭和4（1929）年、東京23区北西部への配水を目的として建設されました。同41（1966）年までは、浄化した多摩川の水をこの塔のために、各家庭に給水するために、その後は平成17（2005）年まで災害用給水槽として使われました。



外壁には空襲時の弾丸の傷跡が残されています

ドーム型の屋根が特徴的。地域では「みずのとう」という名前前で親しまれ、平成22（2010）年に国登録有形文化財になりました。